

篤志看護婦人会の制服・看護衣—鍋島栄子夫人の遺品について—  
大妻女大家政 ○大網美代子 石井とめ子

目的 明治20年、日本赤十字社に篤志看護婦人会が設立され、それにともなって世間一般における看護の認識が高まり、職能着としての看護婦の制服や看護衣が確立する。初代会長をつとめた11代佐賀藩主鍋島直大公の妻、栄子夫人（1855～1941）の遺品並びに貴婦人達の看護の状況を考察し、さらに日赤の看護婦着用のものと比較検討して職能着の実態を把握する。

方法 日本赤十字社の関連資料をはじめ、新聞、写真資料の他に実物資料を加えて考察する。

結果 篤志看護婦人会の制服及び看護衣は一般的に使用されている日赤の看護婦着用のものとは種々の差異が認められた。また、篤志看護婦人会の貴婦人達は名誉職にとどまらず実際面での活躍をしていたことがわかった。